



2015
vol. 55

CONTENTS

特集

男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査

福島のきらめく人

事業レポート

第3回国連防災世界会議
パブリック・フォーラム 他





男女共同参画・女性の活躍促進 に関する意識調査

福島県では、平成26年度に実施した「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査」の結果を公表しました。その調査の中から一部をピックアップして紹介します。

調査の目的

- 男女共同参画に関する県民の意識を把握とともに前回調査（平成21年3月実施）からの変化を探り、併せて、女性の活躍促進のための現状と課題を探り、調査の分析結果を「ふくしま男女共同参画プラン」の改定及び今後の施策展開の基礎資料とする。
- ※調査対象者の構成が前回と異なるため、構成比等の単純比較はできないことに注意してください。

調査方法

○一般県民意識調査

- 福島県全域の20歳～60歳代の男女2000人に対して、アンケート調査を実施した。
(有効回収数: 744 回収率: 37.2%)

○大学生・高校生調査

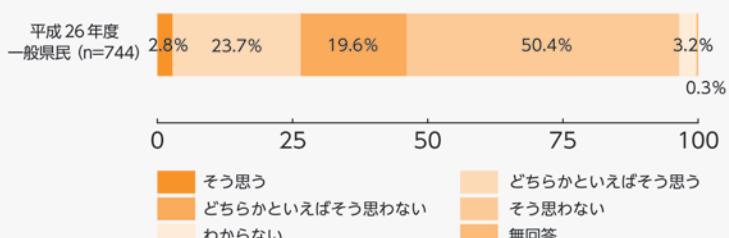
- 県内の大学生及び高校生各1000人に対して、アンケート調査を実施した。
(有効回収数: 大学生: 391 回収率: 39.1% 高校生: 983 回収率: 98.3%)
- ※大学生（短大生を含む）・高校生を今回は新たに調査対象とした。

調査結果のポイント

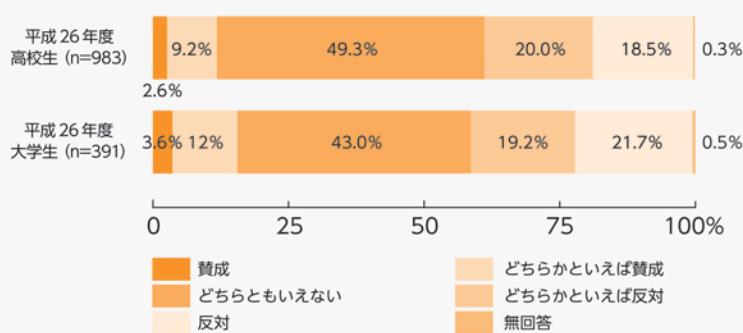
- 本調査では、全体として従来の性別役割分担意識にとらわれない考え方や個性の尊重を重視する意識が高まっているが、家事・育児の負担割合には偏りが見られるなど、更に取り組むべき課題もある。

① 家庭、結婚観（「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」）

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



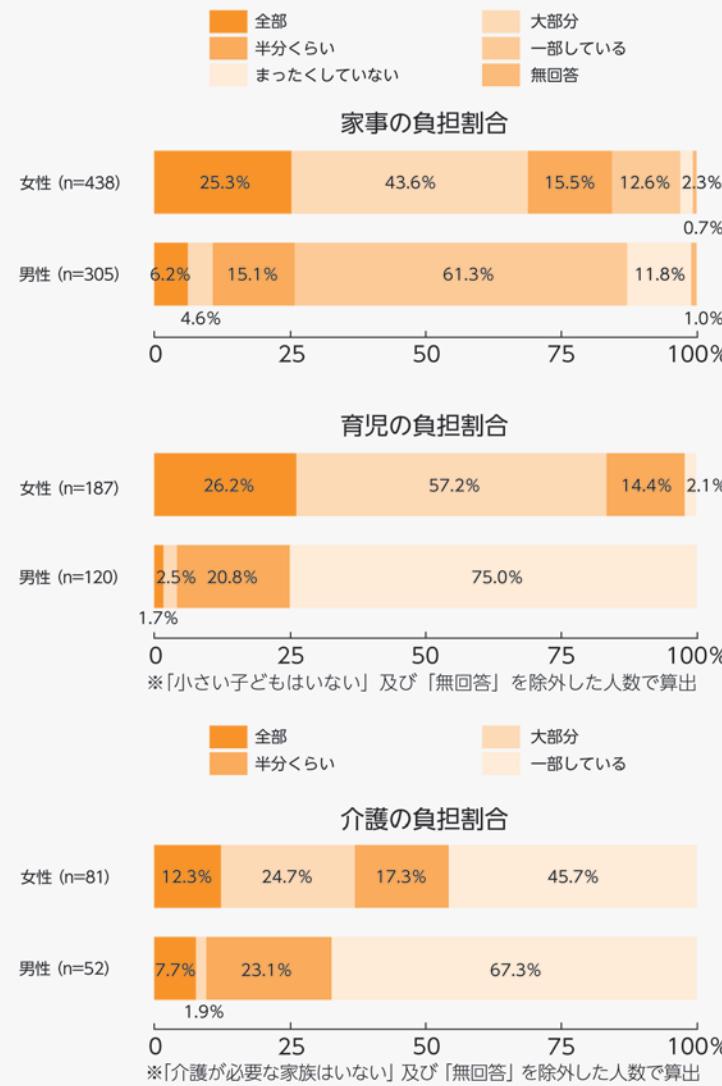
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という問い合わせて、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合が70パーセントとなり、前回の57.7パーセント（20歳～60歳代）から大きく增加了。



大学生・高校生調査では、「どちらともいえない」と回答した割合が多く、大学生、高校生とも傾向として大きな差は見られない。

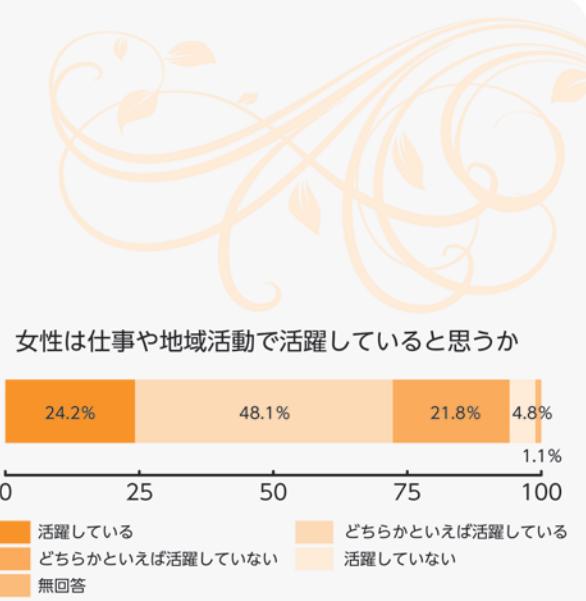
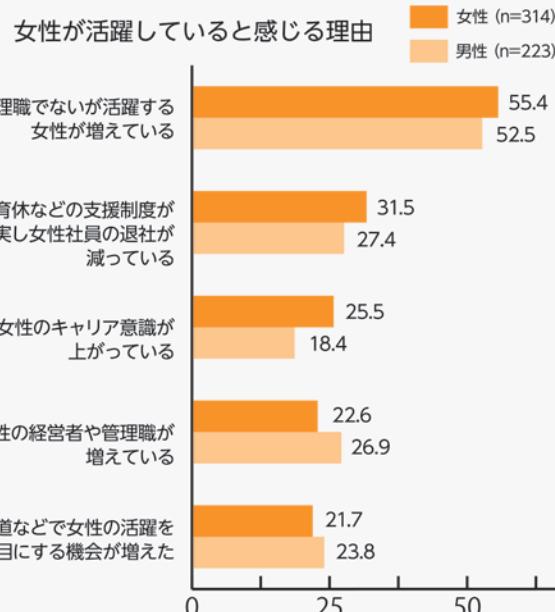
② 家事・育児・介護の負担割合

「仕事や家庭など、家庭の生活に必要な労働について、あなたはどれくらい負担していますか」という問い合わせに対して、「全部または大部分」と回答した女性の割合は、「家事」は約7割、「育児」で約8割と依然として女性の負担が大きかった。



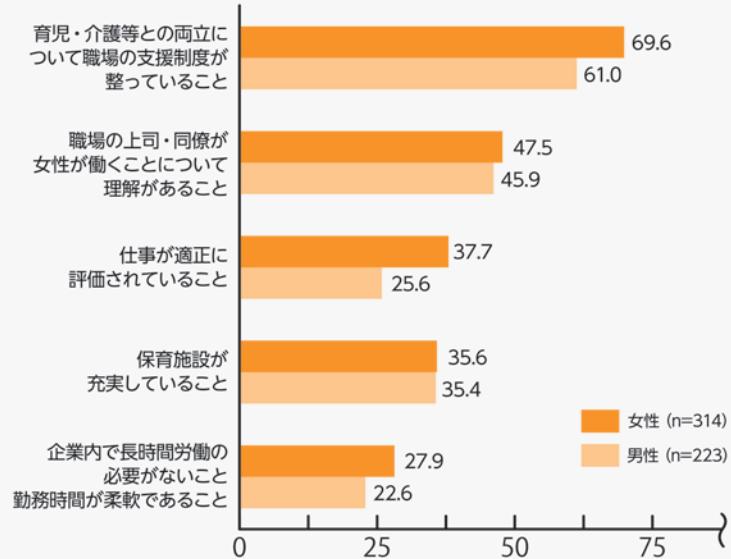
③ 女性の活躍状況

女性の活躍状況で約7割が「活躍している（どちらかといえば活躍している）」と回答した。その理由として、「管理職ではないが活躍する女性が増えている」が最も多く、次いで「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」という結果となった。



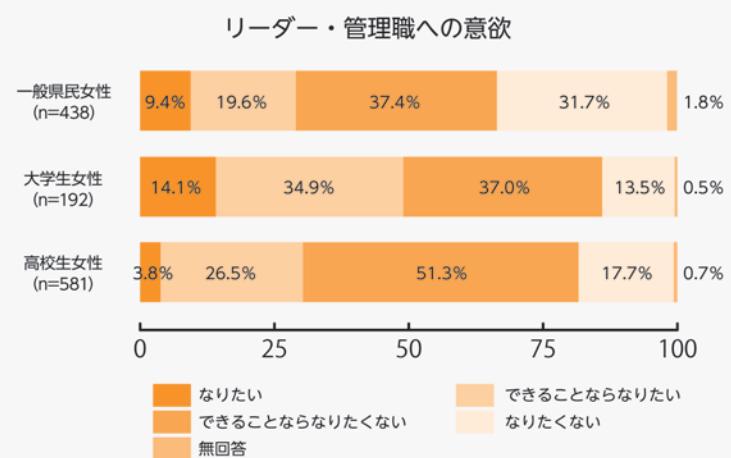
④ 女性の活躍に必要なこと

「育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」が最も多く、次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」「保育施設が充実していること」などとなっており、育児・介護などの家庭生活と両立する制度・環境の改善とともに、周囲の理解や評価など意識の改革も必要だと考えている。なお、「仕事が適正に評価されていること」という項目では男女間で10パーセントを超える開きがあった。



⑤ リーダー・管理職への意欲

リーダー・管理職になりたいと思うかという問いに、「なりたい」又は「できることならなりたい」と回答した女性の割合は、高校生で30.3パーセント、大学生で49.0パーセント、一般で29.0パーセントとなっていた。また、その理由については、高校生は「仕事を通して、社会に貢献したい」、大学生・一般は「能力やスキルを思う存分に活かしたい」という回答が最も多い結果となつた。



当センターの感想

今回の調査からは、前回(平成21年3月実施)よりも固定的性別役割分担意識を変える必要があるという考え方について、理解が進んでいることが分かった。

また、「女性が活躍している」とする回答が7割を超えており、「家事」「育児」「介護」等が、依然として女性の大きな負担になっている状況に変わりはない。

さらに「女性の活躍に必要なこと」の中で「仕事が適正に評価されていること」が必要だと回答した女性が男性を大きく上回っていることなど、課題が明らかになった点もあることから、当センターとしても、こうした課題に対する取組が、今後一層求められてくるものと考える。

福島の きらめく人

国が女性の活躍促進への取組を進めるなか、福島県内でも多方面で活躍する女性がいます。今回は、会津若松市の鶴乃江酒造で杜氏として、お酒造りから販売までこなす林ゆりさんにお話を伺いました。

■ 杜氏になろうと思ったきっかけを教えてください。

小さい頃は蔵を継ごうとは思っていませんでしたが、高校生の時に、仕込みの最中に杜氏が倒れ、お米の温度調整など、杜氏にしか分からないことが多くあるなか、父が教科書片手に何とかその日の仕込みを終えたことがあります。父は、東京農大の醸造科を卒業していたため、お酒造りの知識があったからできました。実際に自分の進路を考えた時、お酒造りの知識があれば、いざという時役に立つと思い、父と同じ大学に進学したことが杜氏を目指すきっかけになりました。

自然の摂理に沿い、目に見えない微生物の力を借りて、お米からとても香りのいい液体ができるという神秘的なところに興味を持ち、自分でも作ってみたいと思うようになりました。

跡を継ぐことになってから、この会津の地に代々続いてきた蔵を守りたいという思いが強くなりました。

■ やりがいを感じる時はどんな時ですか。

今年で、杜氏になって19年になりますが、やはり、絞ったばかりのお酒がおいしいと頑張った甲斐があったと思います。私はお酒造りだけではなく、関東地方のデパートで行われている試飲販売会で、試飲をしていただきながら販売にも携わっています。お客様に「おいしい」と言っていただけることが、何より嬉しいですし、励みになります。

私は、駆け出しの1年目からお酒造りに携わることができました。当時、NHKで女性がお酒造りに奮闘する朝のドラマが放映されていたこともあり、お世話になっていたデパートの担当者から「自分で作ったお酒を売り込んでみないか」と企画をいただいたのがきっかけです。その時すでに母が蔵に入っていて、酒造技能士という杜氏の資格を取ったばかりだったので、母



林 ゆりさん

に麹造りから教えてもらいました。本来なら「はたらき」と言って洗い物からやっていくのが杜氏の世界ですが、運良く、1年目から自分の名前に由来する「ゆり」という銘柄のお酒を造ることができました。

■ 杜氏のお仕事で、林さんが心がけたことはありますか。

目に見えない微生物を相手にしているため、衛生管理が重要であると勉強してきた私は、麹室の掃除を母と一緒に徹底してやりました。麹室などは麹菌をお米に繁殖させるため、菌が一番活動しやすい状況を作つてあげる必要がありますが、昔の酒蔵は結構おおざつぱで、熱い蒸し米をおこすのも上半身裸というような、あまり衛生的ではない状況でした。そういったこだわりは私だから気づけたことだと思います。それによって出来上がる麹の質も変わってきて、よりきれいな味わいが出せるようになりました。

■ これからどのように取り組みたいですか。

お酒造りは、一人ではできません。私も杜氏ですが、ベテランの男性杜氏が蔵の総責任者になっています。

私は女性杜氏として注目されていますが、蔵人みんなで協力し、また、お客様の声を聞くことを大切にすることにより、始めて安定した質のいいお酒を造ることができます。お陰様で生産量も伸び、今春も県知事賞をいただくことができました。

今後は、みんなが安心して働ける蔵を守るために、父の代から引き継いだ、派手さはないけど飲み飽きない1本として、毎日の食卓に置いてもらえるようなお酒を造りたいと思っています。

鶴乃江酒造株式会社

会津若松市七日町2番46号

tel. 0242-27-0139 fax. 0242-27-0339

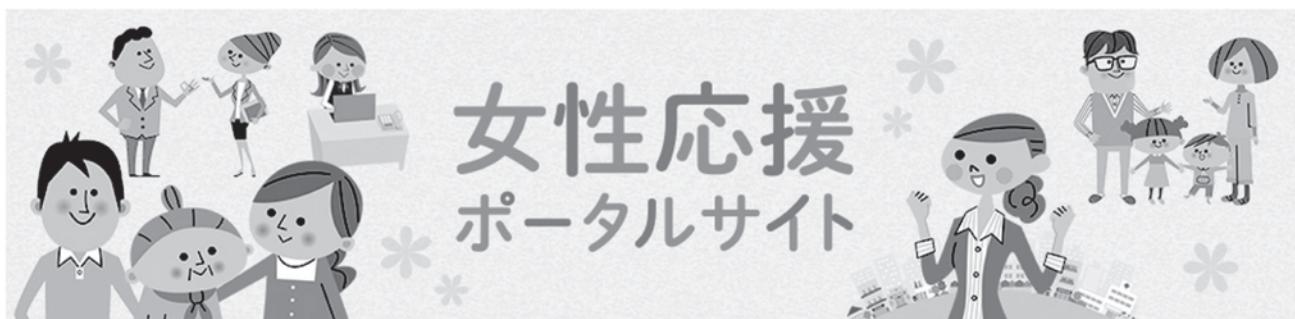
女性を支援するための情報サイト開設

平成27年3月、内閣府の男女共同参画局ホームページ内に「女性応援ポータルサイト」が開設されました。

このサイトは、今まで各関係省庁のページに別々にあった支援情報を1つのサイトからまとめて入手できるようになっています。「安心して妊娠・出産・子育て・介護したい」「職場で活躍したい」「健康で安定した生活をしたい」など、6種類に情報が分けられ、検索することができます。

さらには、利用者が意見や活用内容を投稿できるページも用意しておりますので、ぜひ、ご覧ください。

<http://www.gender.go.jp/policy/sokushin/ouen/>



研修室・宿泊室のご利用案内

当センターには、どなたでもご利用いただける研修室、宿泊室があります。

今年度より研修ホールのプロジェクターとスクリーン、宿泊室（洋室）の内装とトイレ（シャワートイレ）が新しくなりました。

よりきれい且使いやすい施設になりましたので、皆様、ぜひご利用ください。

なお、男女共同参画研修等の目的で宿泊される場合は、通常料金より割引になります。

詳しくは、ホームページをご覧ください。



研修ホール



宿泊室(洋室)

宿泊料金割引料金表

利用区分	室名	1人で使用する場合	2人以上で使用する場合
男女共同参画を推進する活動のため研修室等を利用する（した）場合	ツインルーム 和室	割引価格 3,000円	2,600円
その他の使用である場合※	ツインルーム 和室	4,300円	3,900円

※6回目の宿泊が半額になるお得な割引カードがあります。

予約・お問い合わせ TEL (0243)23-8301

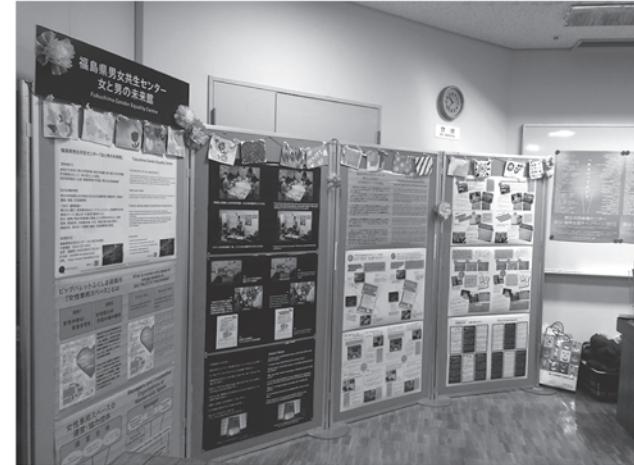
第3回 国連防災世界会議 パブリック・フォーラム

「女性と防災」 テーマ館への展示出展

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議です。第1回の会議は1994年に横浜市、第2回は2005年に神戸市、第3回は2015年3月14日(土)～18日(水)に仙台市において開催されました。新しい国際的防災指針である「仙台防災枠組2015-2030」と、防災に対する各国の意思を示した「仙台宣言」が採択されました。

この第3回国連防災世界会議の開催に合わせ、仙台市男女共同参画推進センター(エル・パーク仙台)において、パブリック・フォーラムテーマ館「女性と防災」が開かれました。パブリック・フォーラムでは、政府機関、地方自治体、NPO、NGO、大学、地域団体、男女共同参画センターなどが国内外の防災や減災、復興に関する取組を一般公開しました。様々なシンポジウムやセミナー、展示等には、延べ15万人以上が参加しました。

「青森・岩手・福島ブース」では、被災3県(青森・岩手・



福島)の男女共同参画センターの震災後の取組をパネル展示し、紹介しました。福島県男女共生センターでは、ビッグパレットふくしま避難所内で女性の安心や安全を守るために開設した「女性専用スペース」の運営支援や運営を担った女性団体の被災者支援活動報告、利用者と支援者が一緒につくった暖簾や飾りを展示了しました。その他、平成25年度に実施した防災分野における女性の人材育成を目的とした「未来塾女子“防災”力UPセミナー」を紹介しました。

東日本大震災では、当センターが県内の女性団体とともに開いた「女性専用スペース」の運営支援を始め、被災女性の支援等をきっかけに、「防災・復興」の現場では地道に活動する女性がいる一方で意思決定の場に参画する女性リーダーが少なく、防災・復興の取組に女性の視点が欠けているなどの課題が明らかになりました。

災害による被害を軽減し、災害に強い地域をつくるためには女性の力が不可欠です。これらの課題の解決を目指し、防災・復興と男女共同参画をテーマとした普及啓発や人材育成の取組を進めていかなければなりません。今回のパネル展示を通じこれらのメッセージを発信しました。

未来館フェスティバル開催

平成27年9月5日(土)・6日(日)

平成27年度「未来館フェスティバル2015～きらめくひとに、会いに行こう。～」をセンター開館15周年を迎えるにあたり、記念事業として盛大に開催します。シンボルイベントとして「おひとりさまの老後」の著者で、社会学者の上野千鶴子さんが「真の“女性活躍社会”をつくるための処方箋」と題して講演を行います。また、県民の皆さんによる自主的な企画、6日(日)には「認知症介護セミナー」も開催します。

その際に一緒に活動をしてくださる「運営ボランティア」を募集しています。活動経験があるボランティアと一緒に活動しますので、ボランティア活動は初めてという方でも、是非、ご応募ください。

詳細については、ホームページ等で随時アップしますので、ご覧ください。

撮影：岡戸雅樹



上野 千鶴子さん



お問い合わせ

事業課

TEL (0243)23-8304

福島県男女共生センター広報誌

未来館
miraikan news

n C W S 2015 vol. 55

※当センターに対する御意見・御質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。

(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター（女と男の未来館）

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目 196-1

TEL (0243)23-8301(代) FAX (0243)23-8314

ホームページアドレス：<http://www.f-miraikan.or.jp>

メールアドレス：mirai@f-miraikan.or.jp

女と男の未来館

SEARCH